

世に棲む日日 〈1〉



[世に棲む日日 〈1〉 下载链接1](#)

著者:司馬遼太郎

出版者:文藝春秋

出版时间:2003/03

装帧:

isbn:9784167663063

時は幕末。嘉永六(1853)年、ペリーの率いる黒船が浦賀沖に姿を現して以来、攘夷か開国か、勤王か佐幕か、をめぐって、国内には、激しい政治闘争の嵐が吹き荒れる。

長州萩・松本村の下級武士の子として生まれた吉田松陰は、浦賀に来航した米国軍艦で密航を企て罪人に。生死を越えた透明な境地の中で、自らの尊王攘夷思想を純化させていく。その思想は、彼が開いた私塾・松下村塾に通う一人の男へと引き継がれていく。松陰の思想を電光石火の行動へと昇華させた男の名は、高杉晋作。身分制度を超えた新しい軍隊・奇兵隊を組織。長州藩を狂気じみた、凄まじいまでの尊王攘夷運動に駆り立てていくのだった……

骨肉の抗争をへて、倒幕へと暴走した長州藩の原点に立つ吉田松陰と弟子高杉晋作を中心に、変革期の青春群像を鮮やかに描き出す長篇小説全四冊。

吉川英治文学賞受賞作。

作者介绍:

司馬/遼太郎

大正12(1923)年、大阪市に生れる。大阪外国語学校蒙古語科卒業。昭和35年、「梟の城」で第42回直木賞受賞。41年、「竜馬がゆく」「国盗り物語」で菊池寛賞受賞。47年、「世に棲む日日」を中心にした作家活動で吉川英治文学賞受賞。51年、日本芸術院恩賜賞受賞。56年、日本芸術院会員。57年、「ひとびとの跼音」で読売文学賞受賞。58年、「歴史小説の革新」についての功績で朝日賞受賞。59年、「街道をゆく“南蛮のみち”」で日本文学大賞受賞。62年、「ロシアについて」で読売文学賞受賞。63年、「韃靼疾風録」で大仏次郎賞受賞。平成3年、文化功労者。平成5年、文化勲章受章。平成8(1996)年没(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

目录:

[世に棲む日日〈1〉_ダウンロード1](#)

标签

日本

高杉晋作

吉田松阴

司马辽太郎

武士

日本文学

幕末

小说

评论

狂士的人生 继续第二本

第一次读司马辽太郎，感觉很微妙。这种历史小说总是感觉不是很丰厚，人物还蛮白板的。想知道司马辽太郎倒是考据了多少……

[世に棲む日日 〈1〉 下载链接1](#)

书评

[世に棲む日日 〈1〉 下载链接1](#)